



No.144 2018. 12

発行 真言宗豊山派
北田山寶泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com

声明の世界をたずねて



歌うようにお唱えする節のついたお経を「声明（しょうみょう）」といいます。真言宗の声明は音楽的な評価が高く、カーネギーホールでの公演をはじめとして、世界的な音楽祭へもこれまで多数出演してきました。また、国内でも武道館やサントリーホール、国際フォーラムでのコンサート、青山スパイラルホールでの定期公演（現在は終了）など大小様々な舞台上、真言僧侶の美声（？）が響いています。

今年は埼玉県の間僧侶を中心としたメンバーにより、狛江、浦和、所沢の三か所で声明コンサートが開催され、多くの方に仏教音楽の世界を楽しんでもらいました。私も狛江と所沢では登壇者の一人として舞台上上がり、また浦和の公演でも裏方として携わりました。当然、声明の稽古も例年に比べ多く、私自身、今年一年は特に声明を頑張った年だったと振り返っています。

声明はもともとインドの五種の学問（五明）の一つで、言葉の学問を意味し、その教えは日本の五十音とも関係があるとされています。

日本で声明が初めて本格的に用いられたのは752年東大寺大仏開眼の時でした。その後、真言宗の開祖であるお大師さまが真言声明を、さらにその後には慈覚大師円仁が天台声明を中国から持ち帰ります（ですので声明といえばこの二つの宗派が有名です）。



その内容は、特定の仏さまや、その功德を称えるもの、「散華」という造花をまきながら仏さまをお迎えするためのもの、悪しき存在を退散させるもの、善き生き方を説い

たものなど様々。特に豊山派の声明はメリハリのきいたダイナミックさが特徴です。

声明は、仏さまに思いを届けたい一心が歌という形に昇華されたものです。皆さんが接するご法事の声明は少し物悲しく、5月に当山で行われる大般若転読会でのそれは、ご祈願のために明るく勢いがあるなど、法要の趣旨によって趣が異なってきます。そんな観点からお経に耳を傾けてみるのも一興かもしれませんね。

【コンサートを鑑賞されたお檀家の方から感想をいただきました】

平成30年10月28日、「寶泉寺ご詠歌の会」の皆さまと所沢ミュージアムで開催された声明コンサートに行きまして。800人近い観衆がホール一杯になり、こんなに関心が高いのかと驚きました。

声明については何度か耳にしたことがありましたが詳しい知識はありませんでした。

今回、宝玉院住職の新井弘順師によるレクチャーで、声明がインド（サンスクリット語）で起こり、中国（漢文）を経て日本（和文）に渡り現在に至る歴史や、現在の平曲（琵琶）、謡曲（能）など邦楽の発展に多大なる影響を与えたということを知り、大変感慨深いものがありました。

新井師の講義の中では、若手僧侶が様々な声明を実際に唱え紹介してくださり、何か仏さまに救われているような感じがしました。

講義のあとは寶蔵院副住職と寶泉寺住職によるご詠歌「総本山長谷寺和讃」の澄み切った素晴らしい詠唱があり、日ごろ慣れ親しんでいる我々にとってもほっとするものがありました。

今回のメインは僧侶19名による「大般若転読会」でした。「大般若経」600巻を転読していただき、見事な所作に感激し、会場一杯にありがたみもひとしおでした。

最後に会場割れんばかりの太鼓付き「般若心経」で締めくくりとなり、今日、私は仏さまと一体になったことを肌で感じ、平成最後の声明コンサートを後にしました。



中学生社会体験



今年も2校の中学生が、体験学習のために当山を訪れ、それぞれ3日間にわたり境内やお堂の掃除、お勤め、座禅、写経、仏具磨き、まとめの発表などを体験してもらいました。もちろん恒例の集めた落ち葉で焼き芋のごほうびも。「みんなハズレくじを引いてお寺に来たんでしょ？」と言うと、「違います！お寺に興味がありました！」と真剣な表情をしてくれる子が以外と多く、ちょっと嬉しくなりました。来年はどんな子が来てくれるかなあ。



老僧のつぶやき ⑧

この秋、巧妙な手口の詐欺の3通のハガキを受け取りました。

「消費料金の・・・」「訴訟最終告知」とやらのもの、内心こんなことは無いはずと思いながらも一瞬ギクッとしました。一息おいてネットを検索してみたところ、その情報がすぐに目にとまり、やはりそうだったかと安心した次第。

さて12月はお釈迦様がお悟りを開いた月で、その中身は「中道」とされます。中道とは足して二で割るようなものではなく、右にも左にも偏らない、一つのことにとこだわらない心や態度だといわれます。しかし本来、偏らない心を以て態度を決めるには右も左も知る必要がある事になります。お釈迦様の言葉は「洞察力、観察力を持つ」と小僧(しょうそう)には聞こえてきます。ところで詐欺のハガキごときに洞察力や観察力とは言いませんが、あわてて対処すること(これもこだわりの様相)なく事の真偽を確かめたり、情報を調べたりしてみるとか慎重に行動したいものです。

第33回元旦お経の会

「元旦お経の会」、30分程度のおつとめと新年のあいさつなど、最後に毎年集合写真を撮っています。本尊様のお札やお守りなどを用意して皆様のご参詣をお待ちいたします。

日時：1月1日 午前0時と午前9時の2回

会場：寶泉寺本堂

- ・本堂の正面の階段を上って直接お上がりください。
- ・念珠やお袈裟をお持ちの方はご持参ください。

年回表

平成31年

一周忌	平成30年
三回忌	平成29年
七回忌	平成25年
十三回忌	平成19年
十七回忌	平成15年
二十三回忌	平成9年
二十七回忌	平成5年
三十三回忌	昭和62年



亥年、今年もミシン刺繍色紙を頂く。皆様の仏様の命日にあわせて今年の予定などを検討してみてください。

編集後記

- ・今年が明治150年、特に印象深いこともなかったが明治100年の時は小僧の生まれ育ったお寺では梵鐘の再鋳が叶った年だった。鐘は戦争で供出させられて、鐘楼はあっても本体はなかった。「平和の鐘のなる村の♪♪・・・」小学校校歌の冒頭だ。今年も住職は除夜の鐘をつく、平和を願って。
- ・暮れになると辺りの整理がしなくなり処分の品々が山のように出てしまう。スマートフォンをお使いなら便利なアプリがある。所沢市のゴミ収集アプリ「わけトコっ」、日程や出し方など

詳しく載っていて、表やカレンダーを見る必要が無い。設定すればスマホが今日は何々ですよと教えてくれる。是非おすすめの一品、逸品だ。

- ・平成最後の年、昭和から平成の時期は小僧にとっても印象深い。さて次の元号はなるのだろうか。発表を巡って議論があるとマスコミは伝えているが、日常生活に混乱をまねかない方法にしたいと思っている。
- ・寶泉寺ご本尊、薬師如来様の御加護あらんことを切にお祈り申し上げます。

Dec. 20, 2018 (琴)